

クラス番号	231	ゼミタイプ	多職種連携型
		担当教員名	洪 英在
テーマ	医療の現場における多職種連携の実際を知る		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

2006 年、米国老年医学会より、「複雑な背景をもつ高齢者に対する多職種連携の立場表明」がなされ、質の高い多職種連携によるケアが実施されることで、以下のような効果を得られると示されました。

- ①複雑な疾患、背景を持つ方への対応が可能となる。
- ②ケアの過程、結果が改善される。
- ③ケア提供者の負担が軽減される。
- ④多職種連携の研修、教育が重要である。

この立場表明は米国における高齢者に対する立場表明ですが、内容は高齢者に限った話ではありません。どのような背景を持つ方への対応にも共通する部分があり、どの分野であっても多職種連携が重要なのは言うまでもありません。

医療の現場と言っても様々です。それぞれの現場で多職種連携がどのように行われているかを知ることが重要です。病院だけではなく、医療的ケアを有する方が多く療養している施設でのフィールドワークも組み込み、下記のようにゼミを進めます。

授業計画：

このゼミでは、質の高い連携がなされるとはどういうことなのかを、現場でのフィールドワークを通して知ることを目的とします。そのために、以下のような内容・方法で行います。

- 1) 具体的な事例を通して、医療現場における多職種の役割、連携について考えます。
- 2) 1) を元に、フィールドワークの内容、施設を選び、そこで経験すべきことをまとめます。
- 3) グループに分かれ、病院や医療的なケアが必要な方が多い施設でのフィールドワークを行います。
(病院 1 箇所、施設 1 箇所、計 2 箇所でのフィールドワーク)
- 4) 1 年のまとめとして、報告会を行います。

担当教員からのメッセージ

「多職種連携」は重要だと言われていますが、その重要性を言葉では簡単に説明できません。そのため、まずは「なんとなく」その感覚をつかむことが大切です。このゼミを通して「なんとなく」を言葉で説明できるようにしていきましょう。準備段階では、グループに分かれ、各職種を分担して調べ、発表、質疑を繰り返します。その後、グループワークを通して多職種連携がうまく言っている状態のイメージを膨らませます。

後期では、そのイメージをフィールドワークで確認しに行き、最終的なイメージを報告会でまとめます。どの施設でどのようにフィールドワークを行うかは、皆さんの希望に合わせて可能な限り調整いたします。よろしくお願いします。